愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合表現技術		
担当者(Instructors)	小原 ひろみ	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現を総合して表現される演劇の創作体験を通して、発想力、論理力、表現力、批判的思考力、読解力、問題解決力、コミュニケーション能力、想像力、創造力を身につける。児童が鑑賞するための「演劇作品」を創作する。授業の中で行ったアクティビティなどを活用し、児童の劇表現活動や表現遊びの展開のためのプログラムをつくる。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現で習得した技術と、演劇創作を通して身につけた能力を基礎にして、グループワークやディスカッションを取り入れて、演習形式で行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	身体表現に関する知識や技術を学ぶ１：表現活動に適した環境の構成	表現の目的であるコミュニケーションについて体験的に学ぶ。幼児及び児童の表現遊びの展開について学ぶ。	□
第2回	身体表現に関する知識や技術を学ぶ２：身体表現遊びの展開について	身体表現の演習を行う。グループワークで身体表現作品を創作する。幼児及び児童の表現遊びの展開に関する技術を磨く。	□
第3回	言語表現に関する知識や技術を学ぶ１：劇遊びの展開について	グループワークで短い劇を創作し演じる活動を通して、言語から想像されることを身体表現や音楽表現する活動の展開方法を学ぶ。	□
第4回	言語表現に関する知識や技術を学ぶ２：多様なモチーフからの創作活動と、劇遊びの展開について	多様なモチーフからグループワークで劇を創作する。作品を鑑賞しあい、鑑賞者とのディスカッションを行い、効果的な表現について学ぶ。	□
第5回	言語表現に関する知識や技術を学ぶ３：物語の構成と登場人物の役割について	物語の構成、登場人物の役割について学ぶ。既存の物語をアレンジし、オリジナルの物語を創作する。グループワークでオリジナル物語を劇にする。	□
第6回	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ１：効果音・音楽の創作について	創作した劇を効果的に伝える為の効果音や音楽を創作する。音楽や効果音による効果について学ぶ。	□
第7回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ１：題材・テーマの決定と台本創作について	グループワークで物語から抽出するテーマについてディスカッションし、決定する。場面構成・登場人物の役割等を検討する。児童が鑑賞する為の演劇台本をグループワークで創作する。	□
第8回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ２：音楽・効果音・大道具・小道具・衣装等のプランニングについて	劇をよりよく伝える為に必要な音楽や効果音、大道具や小道具、衣装等のデザインについて検討し製作計画を立てる。	□
第9回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ３：劇創作の過程について	グループワークで上演劇の配役を決定する。台本を読み、内容や登場人物の背景への理解を深める。台本読解から人物の行動を把握し、言語及び非言語で表現する。	□
第10回	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ２：劇に合わせた効果音や音楽の創作について	身近な楽器や音声・リズムなどで効果音を創作し練習する。物語の進行や場面転換を演出する音響効果について学ぶ。	□
第11回	造形表現に関する知識や技術を学ぶ１：大道具・小道具・衣装等の製作について	身の回りの物を活用して、大道具・小道具・衣装等を製作する。演出効果と共に、安全性や扱いやすさについて学ぶ。	□
第12回	総合表現に関する知識や技術を学ぶ４：立ち稽古①	音楽や効果音、大道具小道具の各表現技術を総合して劇の練習を行う。グループワークでの劇つくりを通して、他者との合意形成・他者との協働・共に課題解決することを体験的に学ぶ。	□

第13回	総合表現に関する知識と技術を学ぶ５：トライアルシアター（途中経過確認のための上演）、立ち稽古②	トライアルシアターを行う。互いのグループの作品を鑑賞しあい、意見交流する事で、自己の作品に対する客観的視点を得る。より効果的な表現方法についてグループでディスカッションし、作品を練り直す。	□
第14回	総合表現に関する知識と技術を学ぶ６：リハーサル	リハーサルを行う。	□
第15回	発表とまとめ	劇の発表を行う。劇創作から発表に至る過程と鑑賞の体験から得たものを言語化し共有することで、まとめを行う。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習：感性と表現に関する領域について復習しておく。（1時間程度） 事後学習：授業で行ったアクティビティの内容を振り返り、その目的・目標を理解し、自身の成果及び今後の課題をまとめる。また授業時間内でできなかったものをやり遂げる。（3時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

グループごとに発表された製作物や表現作品については、全体で共有する機会をもち、それに関する意見交流をすることで、課題に対するフィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	資格取得に必要となる知識を活用し、幼児及び児童の表現活動を展開することができる。
主体性	◆ 2019子ども発達DP3	さまざまな個性の他者と共に、正答のない課題に対し主体的にかつ協働的に取り組むことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			80%	20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

第4回の終盤に1～4回の授業で行った内容に関するレポート提出を課します。第15回の終盤に5～15回の授業内容に関するレポート提出を課します。その他20%は、グループ活動と発表劇への貢献度で評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		